

取材と編集にあたって

昭和二十九年三月に発生したビキニ事件は天下を揺るがす大事件だった。三崎はその中核におかれ最大の被害を受けた。にもかかわらず、三崎には当時の記録がほとんど残っていない。国、県などが作成した資料の中には、三崎が重要な拠点として扱われ、三崎が情報発信地になっているケースも多い。だが、三崎独自の資料というのは極めて少ないのである。

これは、この事件が漁業者の世界の出来事であったこと、昭和二十九年という年は三崎町が最後の年で、翌三十年には行政合併が行われ三浦市となり、このとき、三崎町時代の多くの資料が整理されてしまったという事情もある。従って、現存する行政資料は極めて乏しい。

こういう環境の中で「ビキニ事件三浦の記録」づくりが始まった。

資料の多くは、漁業団体に保存されている資料、第五福竜丸展示館に保存されている資料、当時の新聞記事などに頼った。このなかで特筆すべきなのは、市図書館の中にある「四宮海洋文庫」だった。小さなロッカーの中に珠玉の資料が収められていたのだ。

漁業経済学会編集の「漁業経済研究」と、日鯉連発行の機関誌「かつおトまぐろ」の縮刷版である。「漁業経済研究」は、昭和二十八年一月の創刊号（第一巻第一号）から、昭和四十一年の第二十巻第三、四合併号までが、七冊分にまとめられている。

この二点は第一級の資料ともいえるべきもので、この中に、二十九年当時のものが収録されており、貴重な資料を提供してくれた。もちろんこの資料は、ビキニ事件を意識して集められたものではない。

たまたま含まれていたものだったが、当時の三崎町の実情をこれほどまでに生々しく伝えてくれる資料はほかに無い。マグロ漁業に限られた資料だというものの、これは市民の貴重な財産である。

取材を始めた当初は、あまりにも時期が遅すぎたのではないかと考えた。四十年前の話だから、すでに風化してしまつて資料の収集は困難を極めるだろうと思つていたが、どっこい記憶は生きていた。六十歳代以上の人はすべてが経験者である。記録にとどめたものは少なかったが、記憶はしっかりとついていた。久保山愛吉さんが三崎にいた話も、多くの人の記憶が土台となつた。

第五福龍丸の前身、第七事代丸については、予想以上に資料が整備されていた。とくに、第七事代丸の写真と設計図を見たときは思わず息を飲んだ。これを伝えるだけでも今回の記録の整備は十分に意味があると思つた。こうした資料を手元に集めながら、単に資料や数字の羅列だけで終わらせてはいけないと思つた。資料をもとに、多くの人から聞かせてもらった体験談を絡ませれば、市民の息遣いが聞こえるものになるだろうと思つた。

事件の流れを追うためには、どうしても国、県レベルの動きが中心になつてしまふが、これは必要最低限にとどめ、なるべく三崎の動きを中心に、三崎の中のビキニ事件という捕らえ方をした。

これまで、ビキニ事件というと、とかく漁業者の被害と、原水爆実験に対する怒りといった面だけが強調され、それ以外の部分はあまり語られたことがなかった。この事件で儲けた人だつて沢山いるはずなのに、そこに触れることはタブー視されてきた嫌いがある。確かに多くの人が損害を受け、多くの消費者が放射能の不安に怯えているときに、それを逆手にとって儲けるなどというのは不屈きの極みみたいに受け止められるかも知れないが、しかしこれも町民のエネルギーである。このエネルギー

があればこそ、事件後立ち直りも早かったのではないか。この事件では、検査をする側の厚生省、保健所の職員は悪役にされたが、これは間違いだ。三浦でのビキニ事件という舞台の上では、すべてが平等でなければなるまい。こうした視点にたって、これまであまり触れられていなかった部分にも踏み込んでみた。

事件当時の、小中学生の作文を発掘できたことも予想外の成果だった。執筆者たちはすでに五十代後半を迎えている。

私は漁業者でもなければ魚商でもない。反核運動の闘士でも、行政マンでも、郷土史研究家でもない。事件の利害が全く及ばない一市民である。そういう立場だからこそ、冷静に見えてくる部分というものがあつたと思う。

多くの方から教えていただいた事柄の中には、事件の「本文」としては登場しないが「サイドニュース」として重要な意味を持つものが沢山あった。それらをまとめて第四部「聞き書きメモ」を構成した。本当はまだ沢山の話があるのだが、今回の出版には整理が間に合わなかった。

本書は三浦市から委託を受けて取材と編集に当たったものだが、特に、第五福竜丸展示館三尾喬英氏、神奈川県鯉鮪漁業協同組合川島治義組合長、元船員組合執行委員宮川清一氏、元三浦市長野上義一氏、焼津市の第五福竜丸平和協会評議員飯塚利弘氏をはじめ多くの方々から貴重な資料、情報の提供を受け、ご教示をいただいた。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

平成七年十二月

ビキニ事件三浦の記録

1996年3月1日 発 行

編集・発行 三 浦 市

〒238-02 神奈川県三浦市城山町1-1

電 話 0468 (82) 1 1 1 1 (代表)

印 刷 日本複写工業株式会社

〒130 東京都墨田区亀沢1-3-3